

公立高校 後期選抜 台否判定方法

小高進学塾

※定員 120 名の高校に 160 名が受験をした場合を例とします。

順位	【第一次選抜】		【第二次選抜】
	内申点(評定値)	学力検査結果(500 点満点)	内申点+学力検査結果
1 位	◎ X 君(120 点) △ Y 君(110 点)	◎ X 君(345 点) △ Z 君(310 点)	X 君のような A 組合格で埋まった人数枠(仮に 80 人とする)
↓ 定員の 8 割 96 位			
↓ 定員 120 位	△ Z 君(90 点)	△ Y 君(300 点)	定員までの残り 40 人は、 内申点+学力検査結果の高い順に合格となる ◎ Y 君(410 点)
↓ 受験者 160 位			× Z 君(400 点)

【第一次選抜】

内申点(評定値)と学力検査結果のそれぞれで順位をつけます。このとき、両方とも定員の 8 割以内であれば合格です。これを A 組合格と呼びます。

(例)内申点(評定値)・学力検査結果ともに定員の 8 割(96 位)以内の X 君は合格となります。

【第二次選抜】

A 組合格を果たせなかった残りの受験生については、内申点(評定値)と学力検査結果を合計して合否判定を行います。

(例)内申点(評定値)が 96 位以内に入らなかった Z 君と、学力検査結果が 96 位以内に入らなかった Y 君は、内申点(評定値)と学力検査結果を合計します。その結果、合計点が定員以内の順位だった Y 君は合格です。これを B 組合格と呼びます。しかし、合計点が定員以内の順位に入れなかった Z 君は残念ながら不合格となります。学力検査結果では Z 君が上位でしたが、第二次選抜では内申点(評定値)と合計で合否判定を行うため、このような逆転現象が生じることがあります。

なお、B 組の合否判定の際には、内申点(評定値)に各高校で定める係数である K 値を乗じます。この値が高いほど内申点(評定値)を重視した合否判定をする高校といえますが、最近では中学校間の評定格差を考慮して 1 とする高校が多くなっています。近隣公立高校で K 値が 1 以外の高校は若松高校(K=3)、四街道高校(K=3)、四街道北高校(K=2)のみです。

※いずれの合否判定でも調査書記載事項や学力検査での個々の教科の得点、面接等各高校が必要に応じて実施する検査にて、特に問題となる点がないことが条件です。

※英語科・国際教養科における英語、理数科における数学・理科の得点は 1.5 倍、または 2 倍に傾斜配点されます。(詳細は各高校により異なります)